

令和2年度 林業普及週間現地情報(7/5～7/11)

森林管理課

あらげきくらげ生産者情報収集

7月10日（金）

東村のあらげきくらげ生産者から、施設内の一部の菌床に6月下旬頃から黄色い粘菌が発生するようになったので、対処法等があれば教えて欲しいとの相談が寄せられた。

その際に発生している粘菌の画像も確認したが、それだけでは情報が乏しいため、本庁及び出先機関の普及指導員と森林資源研究センター研究員により、現地で聞き取り等を行った。

発生施設は空調による温湿度管理までは行っていないものの、タイマーにより管理したミスト機による自動散水、施設上部の吸気と下部の排気を機械的に制御するなど、施設内の温湿度の管理は適切に行われていた。

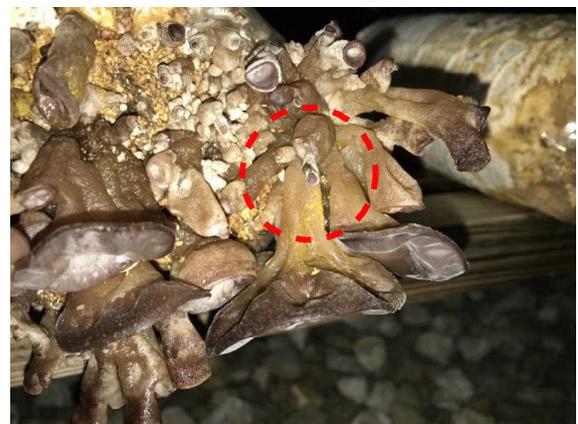
また、菌床入れ替えの際には施設内全体の洗浄・消毒を複数回行うことや、施設内に入る際に靴裏を消毒するなど、施設内を清潔に保ち雑菌の発生等を抑制する取組が幾重にも実施されていた。

今回相談のあった粘菌について、森林資源研究センター伊藤主任研究員によると「粘菌類は通常の土壌中にも存在している菌なので、発生を完全に防ぐことは非常に困難。粘菌が発生した菌床の棚下への移動や部分的な切除、場合によっては菌床の廃棄など、状況に応じた処理を実施することで他の菌床への感染を防ぐしかないと思われる。」とのことであった。

生産者には今後も適切な施設の管理を継続してもらいながら、粘菌等の対応策で新しい技術・情報等が入り次第、適宜指導していく。



施設内での聞き取り状況



黄色いのが粘菌

(報告者：北部農林水産振興センター 今田、大城、森田)